

# ルーファイニングの下地処理

カスタマイジング  
2010年09月22日

純正天井ボードの下地処理の補足参考資料

国産車の純正天井張替（純正の天井にレザー、又はアルカンターラなど）を行う場合の下地処理方法

最近の国産車の天井材はボードに熱処理一体成型で表面布地を圧着している物が多く見受けられます、（特に毛羽立っている物が多い）張替にあたり、表面の材質を剥がす事は不可能です。ですのでその上から違った布地を張る作業となります。

張替はボンドを使用し接着致しますが、一度ボンドを塗るだけではボンドが表面の布地にしみ込みボンドとしての機能を発揮せず接着が弱く剥がれの原因となる為、下地の為のボンドの下塗りが必要となります。

下塗りをする事により、ボンドの吸い込みが無くなりボンドの接着性能を向上させ確実な接着が可能になります。（下地用推奨ボンド コニシ製 G17 ）

外車などの天井が剥がれた場合の張替作業の下地処理方法

ジャガー、アウディー、ワーゲン、ボルボなどの場合  
この車種に多くみられる純正の天井材に使用されている内部ウレタンはウレタンが溶けだしてウレタンを取り除いてもベタベタになっていて最悪の状態の天井が多い車両です。

必ず行う天井ボードへの下地処理方法

上記天井の場合通常の下地処理のようにボンドを一度全体に塗り完全乾燥させてもベタベタが残る場合があります、このベタベタの状態を完璧に修正しないと剥がれの原因となります

対処方法

対処方法として、出来る限りベタベタの状態のウレタンを取り除き コニシ製 G17 を全体にまんべんなく塗り（特に凹凸部分は最重要）完全に乾燥させます。

完全乾燥後 ベタベタ が残っていない事を確認致します。

天井材などの切れ端にボンドを塗り一度乾燥した部分に接着してみ、布地を剥がして下地ボンド自体が布地と一緒に剥がれてこない事を確認します。

これらの作業を行わないと確実な接着とはならず、後日剥がれて来ると言う事態になる可能性が非常に多い事例です。

余りのも天井のベースボードにウレタンがしみ込んでいる物（低年式のワーゲン、ジャガーなど）は上記方法でも下地処理が不可能な場合があります、その場合はワイヤーブラシなどでキズを付けボンドの乗りを良くするしかありませんが、あまりお勧め出来る作業ではありません（ボード本体を破損させる可能性あり）

ただし上記作業方法は当社独自のデータに基づいているもので必ずしも確実な作業とは言い切れません。

湿度について

ボンドは空気中の湿度を吸収する性質がございますので湿度が 75% を上回る場合はボンドを使用する作業はお勧め出来ません。

この後の作業は天井張替参考要領書をよくお読み下さい。

G17はボンドの出る量が大の為天井材に使用すると染み込みの原因となりますので使用は避けて下さい。